

# ごとう通信

第 80 号

平成 19 年 8 月 1 日

当然猛暑が来るものと思っていたのですが、なぜか涼しい夏のようにです。こんなに大幅に予報が変わるなんて珍しいことですが、過ごしやすい夏は大歓迎です。あとは残暑が厳しくなければ良いですね。

さて、ここ最近、「異常気象」という言葉を聞かない年はないというほどいろいろなメディアから流れてきます。これに最も左右される職業が農業でしょう。異常気象が単なる自然現象でなく、先進国の二酸化炭素排出などによる人為的なものだとしたら農業従事者にとって納得のいかないこと



だと思いません。そんな日本の食料自給率は約 40 パーセント。先進主要国の中でも異常なほど低い数値です。とても鎖国をしていた国には思えません。

工業立国として華々しい時代を作ってきた日本ですが、そろそろ自然や農業に目を向ける時期が来てるのではないのでしょうか。先日も二酸化炭素排出量の削減案が国から提出されましたが、それを見た専門家が「失望した」という程度のものでしたようです。「異常気象」が「平年並み」という言葉に変わる前にしっかりとした対策をとってほしいものです。

## 教壇にて

最近、訪問歯科診療や飲み込みの

障害などに対する取り組みが評価されたせいか、いくつかの大学や大学院で講義をすることがあります。講演会やセミナーなどで話をすることは多くありますが、大学での講義の雰囲気は特殊です。しかも大学間でもごく雰囲気が違うんですよ。

ある国立大学歯学部 of 学生に講義をしたときの話です。講堂に十分前に着いたのですが、全員がすでに講堂おり、主任の先生が「早いけれどもやりましょう」という一言で休憩時間中に講義が始まりました。午後最初の講義でしたが、寝る者もいません。しかし、必死に講義を聞いているようでもありません。「興味ないのかな」と途中で思うほどでした。

